

長崎市大浦地区の観光みちづくりを実施

長崎市大浦地区は、歴史観光拠点(グラバー園、大浦天主堂、オランダ坂など)があり、長崎市における重要な観光拠点地域です。この地区は歴史的建造物保存地域、景観指定地域でもあり、地域生活環境の中に、歴史的文化財、歴史的遺構が点在しています。

このような状況を踏まえ、地域資源・文化・歴史等の地域が持つ魅力を発信するとともに、外部からの来客者がマップを片手に楽しく散策し、また地元住民が自分の街に愛着を持ってもらうことを目的とし、風景街道を活用した市民参加による観光まちづくりの社会実験を実施しました。

まちづくりのための手法として「通り名」を取り入れ、民・学・官の協働で地域資源を発掘し、地域の歴史や資源をストーリー化し、回遊のルートづくりやまち歩き楽しさを掲載したマップづくり、景観づくりを行いました。

回遊のストーリーづくりまた、「通り名」の命名にあたっては、地域住民が一同に会し、地域の歴史・文化等を掘り起こしながら「通り名」を命名するなど、プロセスを通じて地域のコミュニティの再生を図りました。



▲通り名マップ

「通り名」を活用した住民・行政協働のまちづくりプロジェクトを実践



▲通り名マップの裏面には、地域住民お薦め観光情報やグルメ情報、ロコミ情報などを掲載。

←クリックで PDF ファイルがダウンロードできます。



▲プレートは、地域の景観にあった色・デザインを検討し、地域の商店や住宅で設置協力を呼びかけ取り付けました。



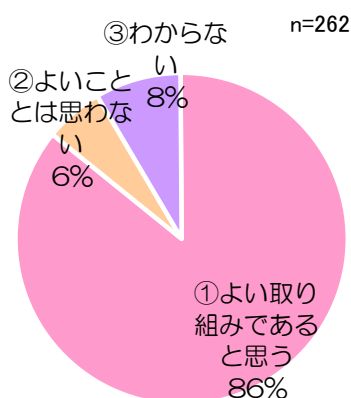
▲「通り名」の命名や、マップの作成にあたっては、地域住民が一同に会するワークショップを開催しました。

アンケート調査結果

社会実験に対する評価を把握するため、大浦地区在住の住民対象アンケート調査を行いました。

1. 実施期間 : 平成 21 年 3 月 14 日
2. 実施方法 : 調査員による対面式調査
3. サンプル数 : 262

問. 本社会実験の取組について



問. 実験実施前と実施後の「まちへの愛着」の意識

